

### 第3章平成27年度事業計画

#### 目次

1	概要	63
2	会議・会合	65
3	粉体工業展	65
4	常置委員会	66
5	規格・標準化委員会	69
6	臨時委員会	71
7	分科会	71
8	粉体工業技術センター	78
9	技術情報交流懇話会	79
10	共催・協賛及び後援行事	80
11	刊行物	80

## 第3章 平成 27年度事業計画

(平成 27 年 3 月 18 日理事会承認)

自 平成 27 年 4 月 1 日  
至 平成 28 年 3 月 31 日

### 1. 概要

平成 27 年に入り、消費者マインドの弱さや海外景気の下振れなどが、我が国の景気を下押ししているものの、原油価格下落の影響や各種経済政策の成果もあって、緩やかに回復し先行きにも透明感が増してきたようです。平成 27 年度は、輸出環境の改善や設備投資の増加などに伴う企業経営マインドの好転により、賃上げ・雇用環境の改善などが進み、経済の好循環が拡大していくことを期待したいものです。

当協会は、粉体がかかわる鉱工業技術の開発および普及を通じて粉体関連工業の発展を図り、もって我が国経済の健全な発展と国民生活の向上に寄与することを目的とし、一般社団法人として、社会から求められる使命と役割を積極的に果たしていかなければなりません。そのためにも、基本を大切にしつつも、新しい考えや技術を取り入れ、次の世代へ、そして未来へと引き継いでいける協会づくりを目指したいと考えます。

公益目的事業(継続事業)活動の柱である分科会活動を中心とする**調査・研究事業**、月刊情報誌「粉体技術」の発行などによる**広報・普及事業**、教育部門を中心とする**人材育成・教育事業**、JIS、ISO などの**規格・標準化事業**および**海外交流事業**など、これまでの事業を引き続き強力に推進します。

また、これら公益目的事業を支える**展示会事業**、**標準粉体製造頒布事業**に加え、**会員共益事業**の積極的展開を図り、粉体工業技術があらゆる産業の基盤技術であり、先端技術への入口に位置することを深く認識し、協会内外から「魅力ある」と評価される事業活動の展開に取り組んでまいります。会員各位のご支援ご協力をお願い申し上げます。

今年度は、「**ユーザー視点と実際の設計に役立つ分科会活動**」、「**基本技術の伝承と普及を目指した人材育成・教育事業**」、「**ナノ粒子への対応と検討**」および「**粉体工業展大阪2015の目標達成**」を活動の重点目標に掲げたいと思います。

#### 1) 公益目的事業(継続事業)の活動計画概要

##### 1. 1) 調査・研究事業

19 の分科会は、夫々に掲げた中期的テーマ(3 年程度)に基づき、平成 27 年度(単年度)活動を展開します。分科会運営委員会は、協会の重点目標である「ユーザー視点と実際の設計に役立つ分科会活動」を基本に運営します。また、拡大分科会運営委員会並びに分科会連絡会議での議論や分科会モニタリングにより得た各分科会が抱えている課題の共有化とその解決を図ることに注力します。微粒子ナノテクノロジー分科会が中心として検討してきたナノ粒子の“利用面”での活動は、平成 27 年度より技術委員会傘下の新委員会「ナノ粒子利用技術委員会」で取り扱うこととなりますが、関連分科会は必要に応じ適時協力していきます。

技術委員会傘下の「技術用語検討委員会」は、粉体用語集「粉体用語ポケットブック」を発刊します。また、ナノ粒子関係では、現「ナノ物質検討委員会」が「ナノ粒子安全性検討委員会」と改称し“安全面”での活動を担当します。“利用面”での活動は上述しました新委員会が行います。この「ナノ粒子利用技術委員会」は『ナノならではの機能、ナノサイズ化の利点、それを実現する取扱・製造プロセスなど、ナノ粒子の利用についての技術的課題に関する情報を粉体技術業界へ提供し、会員の関連技術、装置の開発、商品化へつなげていく』ことを目的とします。

##### 1. 2) 広報・普及事業

###### (1) シンポジウム・フォーラムなどの開催

「粉体工業技術に関する調査研究の成果の提供」の一環として、当年度も積極的にあらゆる機会を通じ、粉体技術フォーラム、セミナーあるいはシンポジウムの開催に努めます。また、他の学協会との共催、後援および協賛行事にも積極的に参加し、ホームページ、メールマガジンおよび月刊誌「粉体技術」などを通じ、粉体工業技術の普及と啓発を推進します。

## (2) 粉体技術交流・相談事業

粉体工業展大阪2015でも「技術相談コーナー」を開設し、技術相談に応じるほか、産学技術交流推進部門でも、常時協会内外からの粉体技術相談に対応し、産学官や企業間の技術交流を推進し粉体業界活性化の役割を果たしてまいります。

### 1. 3) 人材育成・教育事業

教育部門を中心に、粉体技術者の継続的、専門的生涯教育および人材育成の一貫として、平成 27 年度も以下の講座、セミナーの開催を予定しています。

・粉体入門セミナー(Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ)(粉体工学会企画)	3回
・粉体エンジニア早期養成講座(11講座)	11回
・粉体技術専門講座(分科会企画)	4回
・粉じん爆発・火災安全研修【初級】	1回
・特別講座(海外情報セミナー)	2回
・アドホックセミナー	1回

### 1. 4) 規格・標準化事業

標準粉体委員会は、前年度発表した粒子径分布測定装置検定用粒子(MBP)の「測定の不確かさ」の報告に磨きをかけるとともに、1 μmから 90nm のサブミクロン領域試験用粒子(FSTP)の信頼性測定を実施し、MBP と FSTP を合わせ 100 μm～90nm の範囲をカバーするグローバルトップの粒子径分布測定装置用認証標準物質の確立を目指します。

規格委員会は、粉体工業技術に必要とされる JIS 原案の作成、ISO の新規発行・改正に伴う JIS 原案の作成および JIS 見直し、さらに協会規格原案の作成および見直しを行い、規格化、標準化事業の成果の普及・広報に努めます。平成 27 年度は、「コロイド系…ゼータ電位測定の方法…光学的方法」および「粉体粒子特性に関する用語」の JIS 原案を作成します。

ISO 対応委員会の粒子特性評価小委員会は、ISO/TC 24/SC 4 が担当する国際規格の制定・改正の審議、新規 JIS 作成など「ナノ物質等の計測評価に関する国際標準開発」事業を推進します。第 48 回(6 月 11-12 日、仏・パリ)および第 49 回(10 月 13-14 日、日・大阪)ISO/TC 24/SC 4 国際会議に参加し、国際標準の審議を行います。ふるい小委員会は、ISO/TC24/SC8 の P-メンバーとしての国際規格化を新規体制の下で活動します。許容誤差についての検討および JIS Z 8807-1 の見直しを行います。集じん技術小委員会は、「集じん器用ろ布の品質評価に関する国際標準開発」を積極的に推進します。ISO/TC142/WG 7 で日本提案の FDIS 16891 が今年度 ISO として発行されるに際し、対応 JIS の取扱および ISO 16891 の JIS 化を検討します。また、ISO/TC 142/WG 5 において進められる PWI 16313(part 1, part 2)に関しては、part 2 として日本提案であるバグフィルター技術の適応が可能な性能試験方法になるような規格化を目指します。なお、ISO/TC 142 第 12 回総会(9 月 14-17 日、日・金沢)および WG5 & WG7 に参加します。

粉じん爆発委員会は、安全教育として秋に「粉じん爆発・火災安全研修【初級/基礎編】」を(独)労働安全衛生総合研究所で開催、粉体工業展大阪 2015 では「粉じん爆発情報セミナー」を企画・開催します。また、最新の規制、規格などの動向を把握し、適宜対応します。なお、各工程を専門的に検討している分科会などとの連携は有意義であり、今後とも機会があれば実施してまいります。

### 1. 5) 海外交流事業

今年度も 10 月の IPB2015(上海/中国)に協賛し、海外交流委員会が協会ブース及び Japanese Pavilion を開設します。その他、ACHEMA2015(6 月 15-19 日、独・フランクフルト)、POWX2015(9 月 15-17 日、露・モスクワ)の展示会に参加または情報収集を行います。その他、分科会などの海外活動には協力し、協会情報の海外への発信や海外行事などの情報収集を行います。

## 2) その他事業の活動計画概況

### 2. 1) 展示会事業

粉体工業展大阪2015を、10 月 14 日～16 日、インテックス大阪(南港)4・5号館にて開催します。220 社・団体、620 小間の開催規模で目下出展募集中です。最新情報フォーラム、各種セミナー、こなもんことはじめ、製品技術説明会、技術相談、学生交流会など多くの併催行事を計画しています。

## 2. 2) 標準粉体製造頒布事業

標準粉体委員会で進められている MBP 粒子、FSTP 粒子の認証標準物質に関する測定結果を HP へ掲載し、MBP 粒子、FSTP 粒子への関心と引き合いの喚起を図ります。また、既存の標準粉体について「製品安全性データシート」の新作や更新を行い、製品への安心感と信頼感を向上させて、増版に寄与させます。

## 2. 3) 会員共益事業

以下の活動を通じて、会員相互の親睦と技術情報交流、人脈形成、親睦などの促進を図ります。

- ・技術情報交流懇話会・・・火(4回)、水(3回)、木(4回)、金(3回)曜会、合計14回
- ・推薦審査委員会・・・例年通り、分科会功労賞、個人会員・会友の入会審査、協会賞、粉体工業展賞、粉体工業功績者表彰の審査・推薦を行います。
- ・人材育成委員会・・・引き続き年間4回の「若手のつどい」を開催します。また、粉体工業展大阪2015開催に併せ、「学生ツアー・交流会」を企画・開催します。

## 2. 会議・会合

### 2.1 第34回定時総会

開催日時：平成27年5月26日(火) 13:00

場 所：東京/東京ガーデンパレス

次 第：\*総会

\*表彰式

協会賞授与、粉体工業展賞授与、粉体工業功績者表彰

\*特別講演

\*懇親会

### 2.2 理事会

	開催日時	開催場所
第1回	平成27年 5月14日(木) 15:00	大阪/ANAクラウンプラザホテル大阪
第2回	平成27年 7月31日(金) 15:00	東京/東京ガーデンパレス
第3回	平成27年 11月25日(水) 12:30	京都/京都センチュリーホテル
第4回	平成28年 3月16日(水) 14:30	大阪/ANAクラウンプラザホテル大阪

### 2.3 常務会

	開催日時	開催場所
第1回	平成27年4月14日(火) 14:00	東京/東京ガーデンパレス
第2回	平成27年7月7日(火) 14:00	東京/東京ガーデンパレス
第3回	平成27年10月28日(水)14:00	名古屋/名鉄ニューグランドホテル
第4回	平成28年3月3日(木) 14:00	大阪/ANAクラウンプラザホテル大阪

### 2.4 定例会合

	開催日時	開催場所
秋期定例会合	平成27年11月25日(水)15:00	京都/京都センチュリーホテル

### 2.5 分科会連絡会議および委員会・部門連絡会議

分科会連絡会議	平成28年1月22日(金)13:00	名古屋/名鉄グランドホテル
委員会・部門連絡会議	平成28年1月23日(土) 9:30	名古屋/名鉄グランドホテル

## 3. 粉体工業展

### 3.1 大阪粉体工業展2015の開催

来る10月14日(水)から16日(金)までの3日間、粉体工業展大阪2015が開催される。大阪開催として、11回目を迎える今回は、特別講演をはじめ、「こなもんことはじめ」「粉のネットワーク(名刺交換会)」など、関西地域なら

ではの併催イベントを企画し、産学交流イベント併催を中心に、さらに魅力的な展示会づくりを目指して綿密な準備を進めつつある。

#### ◇開催概要

会 期:2015年10月14日(水)～16日(金)10:00～17:00

会 場:インテックス大阪(南港) 4・5号館

テーマ:粉づくり・ものづくり・夢づくり-粉の技術-

#### ◇出展対象技術・製品

##### 製造・プロセス機器ゾーン

粉碎装置／ふるい分け装置／分級装置／ろ過装置／混合装置／混練装置／造粒装置／コーティング装置  
／乾燥装置／供給装置／輸送装置／分散装置／集じん装置／成形装置／表面改質装置／包装装置／焼  
成装置／他

##### 計装・測定、ラボ機器ゾーン

計測機器／計装機器／ラボ機器／制御システム／FA装置／他

##### 材料、エンジニアリング・情報ゾーン

新素材／フィルター材／スクリーン／機能性粉体／エンジニアリング／受託加工サービス／出版／コンピュ  
ータシステム／助材／他

##### 資源・環境・エネルギー

回収システム／リサイクルシステム／浄化システム／分別システム／清澄化システム／他

#### ◇今回の特色

##### ●最新情報フォーラムの開催

宇宙、製剤、電池、コスメ、リサイクル、シミュレーションに関する 最新情報フォーラムを開催する。

##### ●こなもんことはじめ

「単位操作の基礎」、「液中での粒子の取扱い基礎」、「粉体の概要と乾燥状態での取扱い基礎」

##### ●シミュレーションセミナー

##### ●粉じん爆発情報セミナー

粉じん爆発の危険性評価、予防などをテーマにしたセミナーを開催

##### ●ナノ物質の安全な取扱いに関するセミナー

##### ●製品技術説明会

##### ●特別展示(粉の広場)

未来材料ゾーン出展社プレゼン、アカデミックコーナー、分科会展示コーナー、標準粉体展示コーナー、技術  
相談コーナーをはじめ、多彩なイベントを企画している。

##### ●粉のネットワーク【名刺交換会】

##### ●学生ツアー&交流会

#### ◇同時開催

##### ●粉体工学会秋期研究発表会

##### ●APPIE 産学官連携フェア 2015

## 4. 常置委員会

### 4.1 総務委員会 (赤堀肇紀委員長、棚橋純一副委員長)

委員会開催予定:3回

活動:

- 1)「事業案内2016／2017年度版」の作成・発行。表紙は粉体技術誌の表紙を使用することになった。(和文のみ発行予定)
- 2)APPIEメールマガジンの発信を継続
- 3)海外情報セミナーの開催
  - ①第4回海外情報セミナー【有料】開催予定
    - ・開催日:7月30日(木)
    - ・場所:東京/株式会社日清製粉グループ本社 本社ビル 会議室

- ・対象国:ベトナム
- ・懇親会、アンケート実施予定
- ・第4回から海外交流委員会と合同開催を検討中

②通算5～6回まで開催予定であるが開催要領は未定

- 4)「粉体工業展大阪2015」で非会員出展会社に対し入会勧誘をおこなう。
- 5)分科会、教育部門開催のセミナーなどに出席された非会員会社に対し関係部署と連携の上、入会勧誘活動をおこなう。
- 6)技術交流懇話会における「5分間プレゼン」の有効活用の検討と実施。
- 7)(訪問型を踏まえた)新会員オリエンテーションの検討と実施。
- 8)「日本粉体工業技術協会 最近の5年(2011年～2015年)」誌の検討
- 9)「粉体技術」を読んで感想、意見など広報の立場から申し上げる。
- 10)委員会業務所掌規定にある「協会総務基本事項の総括」の内容の確認をはじめ現状の仕事の棚卸による総務の問題点抽出と改善策を検討する。併せて役割分担も検討する。
- 11)会長特命事項

#### 4.2 技術委員会 (山田幸良委員長、牧野尚夫副委員長)

委員会開催予定:1回

活動:

- 1) 引続き「技術用語検討委員会」と「ナノ粒子安全性技術委員会(旧称:ナノ物質検討委員会)」、および新委員会「ナノ粒子利用技術委員会」に参画する。
- 2) 粉体工学会“秋期研究発表会”「技術セッション」の発展等に、積極的に協力する。

##### 4.2.1 技術用語検討委員会 (牧野尚夫委員長)

委員会開催予定:必要に応じて開催する

活動:「粉体用語ポケットブック」の刊行

1)執筆依頼～脱稿予定;～H27,6,20

委員による内容確認:～H27,7,10

発行予定期日;H27,10,1

2)販売計画;

- ①法人会員に無料配布(1部):300部
- ②法人会員へ販売(新入社員や営業マンへ、プレゼント用など):200部
- ③その他(各種セミナー、展示会などで販売)
- ④H28年度以降の粉体入門セミナーで販売か無料配布を検討。

当委員会は、「粉体用語ポケットブック」の刊行をもって、平成27年度で終了予定

##### 4.2.2 ナノ粒子安全性検討委員会 (明星敏彦委員長、遠藤茂寿副委員長、近藤郁副委員長)

委員会開催予定:2回

活動:

1)粉工展大阪2015のセミナー企画

「ナノ粒子の安全性に関するセミナー」として開催する(3講演)。

2)集じん装置のナノ粒子分離性能の研究

HEPAフィルタ以外の集じん装置のナノ粒子の分離能力を検討する。

3)ナノ粒子の飛散する作業環境の改善提案

会員企業や研究室の個別の作業環境の評価と改善方法を委員会のメンバーで提案する。

4)「ナノ粒子安全性ハンドブック」に基づくチェックリストの見直し・充実化

ハンドブックに記述してあることを自主的に確認する方法を提示する。

前回の著者を中心に何を調べれば安全の条件を満たすか項目を検討する。

(局所排気装置の定期自主検査指針などを参考にする。)

##### 4.2.3 ナノ粒子利用技術委員会 (奥山喜久夫委員長、伊々崎文和、福井武久各副委員長)

委員会開催予定:3回

活動:

- 1)ナノ粒子利用技術に関して、微粒子ナノテク分科会を核として、各専門分科会と連携する。
- 2)ナノ粒子の利用に必要な技術情報を粉体技術業界へ提供する。

#### 4.3 「粉体技術」編集委員会 (大矢仁史委員長、鈴木道隆、谷正美各副委員長)

委員会開催予定:本委員会 4回、小委員会 12回

活動:

予定特集号

平成 27 年	4月号	協会を支える分科会活動
	5月号	海外特集
	6月号	粉体成形・固体化
	7月号	ナノ計測技術のトレンド
	8月号	静電気関連業界・技術の動向
	9月号	自然災害とどのように向き合うか
	10月号	地域密着特有技術
	11月号	クリーン化技術の動向
	12月号	製造設備・機械設備
平成 28 年	1月号	オンリーワン、No1 技術
	2月号	大阪粉体工業展を終えて
	3月号	食品

#### 4.4 推薦審査委員会 (加藤文雄委員長、赤堀肇副委員長)

委員会開催予定:3回

活動: H26 年度に準じ、年 3 回の会合で、各賞の表彰規定に則って、審査業務を実施していく。

#### 4.5 粉体工業展委員会 (増田弘昭委員長、谷本友秀、菅原一博各副委員長)

委員会開催予定:1~2回

活動:

- 1)粉体工業展の開催事業に係わる業務委託を公募・選定する(粉工展 2012~2015)。
- 2)「国際粉工展東京 2014」の反省等をふまえ、「粉工展大阪 2015」を支援・助言していく。

##### 4.5.1 東京粉体工業展委員会 (村田博委員長、大川原正明、槇野利光各副委員長)

委員会開催予定:5回、小委員会1回

活動:

国際粉体工業展東京 2016 の計画・立案を行う。

- ①平成 27,28 年度委員会新委員の選任・委嘱
- ②東京展 2016 以降の展示会運営業務委託先については「粉体工業展委員会」にて選定。
- ③会場・会期については、東京ビッグサイトに第 1 希望(10 月末)、第 2 希望(11 月初旬)を申請しているが、東京ビッグサイト側の仮押さえは 2016 年 11 月 30 日(水)~12 月 2 日(金)となっている。

##### 4.5.2 大阪粉体工業展委員会 (菅原一博委員長、加藤文雄、高倉正紀各副委員長)

委員会開催予定:本委員会3回、小委員会3回

活動:「粉体工業展大阪2015」の開催

- 1) 開催日時:2015 年 10 月 14 日(水)~16 日(金) 10:00~17:00(3 日間とも)
- 2) 会 場:インテックス大阪 4・5 号館
- 3) 開催テーマ:粉づくり・ものづくり・夢づくり - 粉の技術 -
- 4) 開催規模:220 社/620 小間
- 5) 併催事業:

最新情報フォーラム①粉のスケール、宇宙のスケール、②製剤、③電池、④リサイクル、⑤シミュレーション  
こなもんことはじめ、粉のネットワーク【名刺交換会】、製品技術説明会、未来材料ゾーン出展社プレゼン、  
学生ツアー&交流会、粉じん爆発情報セミナー、国際標準セミナー、ナノ物質の安全な取扱いに関する

セミナー

6) 同時開催:粉体工学会秋期研究発表会、APPIE 産学官連携フェア 2015

#### 4.6 分科会運営委員会 (伊ヶ崎文和委員長、伊藤正康副委員長)

委員会開催予定:本委員会4回、ヒアリング1回

活動:

- 1)「ユーザー視点と実際の設計に役立つ分科会活動」を中心に分科会活動の活性化に向けての助言や、分科会の再編や新規分科会の立ち上げなど方向付けを行って行きたい。
- 2)例年と同様に委員会・拡大委員会等を開催し、分科会活動の問題点等を共有化し、皆で解決する方策を探って行きたい。
- 3)「ナノ粒子利用技術委員会」の活動には関連分科会の参画が重要であるので、今後も支援して行きたい。

#### 4.7 海外交流委員会 (辻裕委員長、松本幹治、赤堀肇紀各副委員長)

委員会開催予定:本委員会2回、小委員会1回

活動:

- 海外行事対応:以下の海外展示会への参加または情報収集
  - 1)ACHEMA 2015 6月15日(月)-19日(金) ドイツ・フランクフルト
  - 2)POWX2015 9月15日(火)-17日(木) ロシア・モスクワ
  - 3)IPB 2015 10月28日(水)-30日(金) 中国・上海
  - 4)POWTECH 2016年4月19日(火)-21日(木) ドイツ・ニュルンベルク
  - 5)PTXi-Powder & Bulk Solids 2016年5月3日(火)-5日(木) 米国・ローズモント
- 協会情報の海外への発信:APPIE annual REPORT 等
- 海外行事等の情報を収集し、協会ホームページ等で紹介
- 分科会等の海外活動について協力

#### 4.8 人材育成委員会 (大川原正明委員長、西村卓朗副委員長)

委員会開催予定:本委員会4回、小委員会1回

活動:

若手のつどいを年4回行う、大阪粉体工業展 2015「学生ツアー・交流会」の企画運営を行う、雇用延長制度についての今後の取り組みについて議論していく。

#### 4.9 標準粉体委員会 (森康維委員長、後藤邦彰副委員長)

委員会開催予定:本委員会2回、小委員会1回

活動:

- 1)JIS Z 8901 の改定の可否を確認する。製造事業部門の主力製品である試験用粉体の仕様と JIS 規格の間の齟齬や規格数値の混乱を整理する。
- 2)サブミクロン領域粒子径分布測定装置試験用粒子(新 FSTP)のラウンドロビン試験の実施、平行して「不確かさ」測定を実施、その結果を HP で公表して新 FSTP の CRM 化を目指す。これが完了すれば MBP 粒子 FSTP 粒子を合わせて、0.09 μm から 100 μm の粒子径範囲をカバーする CRM を持つことになり、この分野で世界をリードできる。
- 3)ライバルである EC の CRM の調査、研究を行う。

### 5. 規格・標準化委員会

#### 5.1 規格委員会 (遠藤茂寿委員長、松山達副委員長)

委員会開催予定:2回

活動:

- 1) 国内・国際標準化作業の推進・支援:粉体工業技術に必要とされる JIS 原案作成及び ISO の新規発行・改正に伴う JIS 原案作成、並びに JIS 見直し
- JIS 原案作成:今年度申請した 2 件 ISO の JIS 化(粒子特性評価に関する用語, 光学法によるゼータ電位測定)を行う。



- ・7 件の JIS 定期見直しを行う。
- 2)協会規格原案作成及び見直し
- 3)規格化、標準化事業の成果の普及・広報
  - ・新規に制定された諸規格の紹介を粉体技術誌などで行う。
- 4)国内における粉体工業技術関係規格に関する動向の把握
  - ・粉体工業技術に関する ISO/IEC や関係工業界での標準化の動向について規格委員会で把握するとともに、関連する規格化作業に対しリエゾン委員を派遣し関係者間での情報共有を図る。

## 5.2 ISO 対応委員会（遠藤茂寿委員長、吉田英人副委員長）

委員会開催予定:1回

小委員会開催予定:粒子特性評価小委員会 2回、  
 ふるい小委員会 1回、  
 集じん用ろ布小委員会 2回、WG個別に2～4回

### 5.2.1 粒子特性小委員会（桜井博委員長）

活動:平成 26 年度に引き続き、ISO/TC 24/SC 4 における ISO 規格文書作成に取り組む。

1)ISO/TC 24/SC 4 国際会議へ日本代表団として出席し、国際規格作成に参画する。

・第 48 回国際会議(フランス・パリ、平成 27 年 6 月 11～12 日)

・第 49 回国際会議(日本・大阪、平成 27 年 10 月 13～14 日)

2)定期見直しおよび各審議段階での投票に対し、各 WG 対応委員会を中心に審議し、投票する。

3)レーザ回折法、沈降法、粒子標準物質、気相計測法など、当小委員会が重点的に規格作成を進めている案件について、文書作成や新規提案を行う。

4)遠藤委員が 2015 年 1 月から 3 年間担当する SC 国際幹事業務を支援する。

5)10 月に大阪粉工展に併せて開催する第 49 回国際会議のホストとして、事前準備を含め、円滑な会議運営を行う。

### 5.2.2 ふるい小委員会（松山 達委員長）

活動:JIS Z8807-1 の見直し検討。

### 5.2.3 集じん技術小委員会（金岡千嘉男委員長、福井国博副委員長）

活動

1)ISO16891:FDIS 原案の策定と投票、IS 化。関連する JIS、JIS Z 8909-2,3 及び JIS Z8910 の取り扱いと ISO16891 の JIS 化について検討

2)ISO16313:Part1 については、改良、改善の意見を出す。Part2 については、プロジェクトリーダーの獲得と Part2 原案の検討

## 5.3 粉じん爆発委員会（土橋律委員長、山隈瑞樹、林浩司各副委員長）

委員会開催予定:3回

活動:

1)安全教育

粉じん爆発・火災安全研修(初級および中級)について、内容の見直しをおこなう。講師の交代も考慮し、今後の講師の体制・講習内容を検討する。同時にテキスト(2冊刊行している)について、新講師により改定をおこなう方向で検討する。

・粉じん爆発・火災安全研修【初級／基礎編】(毎年秋、関東関西交互に開催)の開催

平成 27 年秋に、(独)労働安全衛生総合研究所で開催。第 1 日目講義終了後の交流会は次回も実施の予定。講師交代に対応し、内容も見直してゆく。

・粉じん爆発・火災安全研修【中級／技術編】(2年ごとの春に関東で開催)の計画

平成 27 年度は開催しない年度であるが、今後の内容見直し・講師交代に対応した計画を検討する。

2)規格の作成

規格作成は、平成 26 年度で一段落する予定だが、規格の周知や規格の運用面等でのフォローをおこなう。

3)行事等への対応

・国際粉体工業展大阪 2015 における「粉じん爆発情報セミナー」の企画・開催  
例年通り、粉じん爆発防止・被害削減についてのトピックスを中心として企画予定。

#### 4)最新の規制、規格等動向把握

・IEC/TC31 国内委員会への対応

本委員会より山隈副委員長が参加し、動向をフォローしてゆく。

・粉じん防爆構造規格の IEC 規格への整合化

新たな工場電気設備防爆指針(国際整合技術指針)についてフォローしてゆく。

粉じん防爆について、国際規格の調査と防爆ガイド改正(独立行政法人労働安全衛生総合研究所発行)に協力の予定。

#### 5)分科会等との連携

各工程を専門的に検討している分科会等との連携は有意義であり、今後とも機会があれば実施してゆく。

## 6. 臨時委員会

### 6.1 JIS 原案作成委員会(1) -コロイド系-ゼータ電位測定の方法-光学的方法- (東谷公委員長)

委員会開催予定:本委員会3回、小委員会4回

活動: ISO 13099-2 に対応する JIS 原案を作成する。

ゼータ電位は、鉱工業分野で取り扱うコロイド粒子の表面特性、表面改質、分散・凝集制御、吸着、機能性を評価する際のパラメーターである。粒子物性の評価方法として用いられているゼータ電位測定方法の中で、最もよく使用されている光学的方法が 2012 年に国際標準化(ISO 13099-2)され、国際的にこの方法での評価価値が高まっており、あらゆる鉱工業分野での粒子物性評価測定方法の一手段として利用されることが必要となってきた。

当該国際規格を JIS 化することは、ゼータ電位測定方法の光学的方法に関する原理、測定方法の理解度を高めると共に、業界におけるこの規格の理解の共有化及び国際競争力の維持、向上を図ることが期待できる。

### 6.2 JIS 原案作成委員会(2) -粉体粒子特性評価に関する用語- (遠藤茂寿委員長)

委員会開催予定:本委員会3回、小委員会4回

活動: ISO 26824:2013 の JIS 原案を作成する。

粉体を取り扱う工業において、粉体粒子の特性の測定・評価は最も重要な問題である。そのため種々の測定方法が開発・使用されている。そして、その一部は国際規格あるいは国内規格となっている。こうした規格では、試料の取扱、測定、測定結果の表示に関して多くの用語が使用されているが、同じ用語が異なる意味で使用されたり、逆に異なる用語が同一の意味に用いられている場合がある。そうした現状は規格の使用者にとって非常に不便である。当該国際規格 ISO 26824:2013 では、ISO/TC 24/SC 4 によって制定された粒子特性評価に関する規格において使用されている用語をまとめ、その関係を明確にしている。この国際規格を国内規格とすることは粉体プロセス性能の評価を含め、種々の方法で測定される粉体粒子特性を適切に評価する上で必要である。

本 JIS が制定されることによって、測定方法で使用されている用語の意味がより明確になり、また、それらの関係が明確にされることで、測定結果の適切な評価を行うことができる。粉体を扱う工業は多岐に亘っており、それに固有な測定方法があり、その固有な用語が使用されているが、関係業界での互換性を高めることができ、測定技術の向上のみならず、粉体関連工業の進歩が期待できる。

## 7. 分科会

### 7.1 粉体ハンドリング分科会

(松本幹治コーディネータ、松坂修二副コーディネータ、村上徹代表幹事、海老原裕之副代表幹事)

回	本会合予定時期	予定地区	主テーマ
1	5~6月	関東地区	技術講演、製品紹介、懇親会
2	9月	愛知県	株いその工場見学、講演
3	9~10月	東南アジア地区	企業視察、技術講演、懇親会
4	11~12月	関東地区	工場見学、技術講演、懇親会

5 H28.2～3月 関東地区 技術講演、製品紹介、懇親会  
 幹事会開催予定：4回（上記本会合に併せて、または必要に応じて開催）  
 小委員会開催予定：4回（粉粒体ハンドリング技術編集小委員会/本会合に併せて開催）  
 活動：

中期活動テーマ

- 1) 粉体ハンドリングをマテリアルハンドリングの範疇と捉え取り組みの範囲を拡大する。
- 2) 最近の粉体ハンドリング産業の技術力の変遷を把握し、将来展望を見据えた基盤技術や解決困難な技術的課題を抽出し、研究や勉強の場を企画する。
- 3) 「粉粒体ハンドリング技術」書籍の新規編集・発刊を実行する。
- 4) 海外での分科会開催などグローバル催事を恒常化する。
- 5) 粉体工学会機械系単位操作に関する研究会準備委員会の活動に協力する。

今年度の事業計画の概要と運営方針

- 1) マテリアルハンドリング機器を取り込んだ分科会を計画・開催する。
- 2) 「粉粒体ハンドリング技術」書籍編集小委員会を開催し編集を進める。
- 3) 粉体エンジニア早期養成講座への講師派遣と会場提供を行う。

## 7.2 粉砕分科会

（齋藤文良コーディネータ、大木達也副コーディネータ、海老原尚代表幹事、須長克行、藤本信司各副代表幹事）

回	本会合予定時期	予定地区	主テーマ
1,2	6.12～19	ドイツ、スイス他	1;Achema2015 の視察研修 2;有機・無機粉体製造工場、装置・部品メーカーの視察見学
3	9.13～15	韓国	第5回 日韓粉体シンポジウムの合同開催と韓国企業の視察
4	H28.2or3月	東京	未定

幹事会開催予定：4回（5月-東京、7月-東京、12月-東京、3月-東京）

小委員会開催予定：3回（H27.5月-東京、H27.7月-東京、H27.8月-京都）

活動：

中期活動テーマ

会員（メーカー、ユーザー）のための情報収集・発信を重点課題とした活動を展開する。その重点課題の対象物質は、“エネルギー”と“素材”であり、“安全”をもう一つのキーワードとする。“処理対象物（エネルギーと素材）”については、無機材料を基本としつつも、医薬品材料を含めた有機材料をも視野に入れ、両者の良好なバランスを図りながら様々な物質へ広める計画である。

今年度の事業計画の概要と運営方針

- 1) 中長期事業計画に則した本会合ならびに幹事会・小委員会の開催
- 2) 粉体エンジニア早期養成講座「粉砕」の実施

## 7.3 分級ふるい分け分科会

（吉田英人コーディネータ、桜井博副コーディネータ、秋山聡代表幹事、谷川英昭副代表幹事）

回	本会合予定時期	予定地区	主テーマ
1	6月	静岡	セラミックスフィルターによる分離技術
2	9.14～15	韓国ソウル	日韓粉体技術シンポジウム

幹事会開催予定：

幹事会：3回（6、9、10月）

活動：

中期活動テーマ

- ・粉体材料の高機能化に向けた分離径制御および高精度化技術
- ・分級ふるい分けに関する標準化

今年度の事業計画の概要と運営方針

分科会本会合を2回開催する予定である。分離装置に関連した工場および粉粒体製造工場の見学と講演会を実施し、粉体材料の粒子径調整技術の動向を調査する。また、ISO 標準化の情報収集ならびに分級機・ふるい分け機の性能評価法についての調査を行う。

#### 7.4 乾燥分科会（田門肇コーディネータ、立元雄治副コーディネータ、諏訪聡代表幹事）

回	本会合予定時期	予定地区	主テーマ
1	6月	関西地区	講演、見学会
2	11月	東京	乾燥技術、装置関連の講演

幹事会開催予定：

幹事会：2回（6、11月）

活動：

中期活動テーマ

食品、医薬、化学、環境、バイオマス、廃棄物など毎年テーマを変えて工場見学会と講演会を実施する。あわせて海外の乾燥シンポジウムなどから、最新の乾燥技術・研究動向の報告講演会を開催し、国内への情報発信を継続実施していく。

今年度の事業計画の概要と運営方針

第1回分科会：化学関連の工場見学、講演会を計画

第2回分科会：乾燥技術、装置関連の講演会を予定

#### 7.5 集じん分科会

（金岡千嘉男コーディネータ、牧野尚夫副コーディネータ、後夷光一代表幹事、林浩司副代表幹事）

回	本会合予定時期	予定地区	主テーマ
1	5月	広島	集じん装置の多機能化検討
2	8月	未定	ユーザー視点の集じん機への期待(フィルターからの省エネ提案)
3	11月	中部	バグフィルタのISO化
4	H28.2月	関東方面	ユーザー視点の集じん機への期待

幹事会、小委員会開催予定：

幹事会：3～4回(随時、時期、場所 未定)

小委員会：3回(随時、時期、場所 未定)

活動：

中期活動テーマ

平成27年度からの活動テーマは、平成26年度より引き続き、①フィルターグループ、②集じんグループ、③バグフィルターハンドブック準備グループ、④教育グループの4つの小グループを主に活動を推進し、分科会活動の一層の充実を図っていく。またISO委員会集じん技術小委員会において、バグフィルター試験法のISO化を引き続き進めるため、分科会として本活動を全面的に支援する。

今年度の事業計画の概要と運営方針

平成27年度体制は、各拠点幹事による活動を一層活発にし、昨今話題である「省エネ」をテーマとした集じん装置のユーザー満足度の向上や、新たなニーズ発掘、先端技術の提供等を目的に、年4回の分科会を計画する。教育活動においては粉体エンジニア早期養成講座の充実を図る。

#### 7.6 混合・成形分科会

（遠藤茂寿コーディネータ、鈴木道隆副コーディネータ、藤井淳代表幹事、菅原一博副代表幹事）

回	本会合予定時期	予定地区	主テーマ
1	7月	名古屋	敷島製パン工場見学
2	9月	韓国	日韓粉体技術シンポジウム

幹事会・小委員会開催予定：

幹事会：4回(5～6月、9月、10～11月、H28.3月 - 菅原精機(株)他)

活動：

中期活動テーマ

混合・成形分科会では粉体の混合・混練・成形に係わる『温故知新』と『最新技術』をテーマに、工場見学会と講演会を計画。

今年度の事業計画の概要と運営方針

粉体混合・成形がキープロセスであるセラミックスの成形技術や製薬・製剤技術など一連の粉体プロセスにおける今日的な課題に焦点を合わせた活動(見学会、講演会)を行います。小委員会活動にて取り組んできた粉体混合装置の特性評価方法については、H25年度に協会規格化。専門講座にて概説をおこなうとともに、混合から混練への展開に向けたテーマに専門講座を開催する。

### 7.7 造粒分科会 (村瀬和典コーディネータ、武井孝副コーディネータ、桑原敏之代表幹事)

回	本会合予定時期	予定地区	主テーマ
1	9～11月	未定	施設見学会
2	H28.3月	関東	技術討論会

幹事会開催予定：4回(上記本会合に併せておよび必要に応じて開催)

小委員会開催予定：2回(9～11月)

活動：

中期活動テーマ

・2015年度の年間テーマは現在検討中で最終段階である。「最近の造粒技術で“連続操作”をキーワードにした新技術」、を中心に、実際に現在つかわれている連続造粒造粒システムの分析と、新しく要求されている連続造粒運転の仕様との差異を明確にし、これからの基本的造粒技術、特に連続式造粒システムの展望を検討する。

年間テーマに従って例年通り3月に技術討論会／技術講演会を行い、また、同じテーマに関わる造粒の現場に足を踏み入れて、現場の雰囲気を感じて施設見学会を、本年度も実行する。

今までの年間テーマには、「機能性を付与する造粒技術」、「造粒技術の基本を見直す」「新しいエネルギーに関わる造粒技術」、「芸術文化に関わる造粒技術」、「健康・安全に関わる造粒技術」、「人間の五感に関わる造粒技術」等があった。いずれは「生命に関わる造粒技術」(精子、卵子、DNA、細胞等)を取り上げたい。一方で、地道に開発を続けている造粒機器メーカーの新技術を、洩れること無く分析・紹介し、ユーザーニーズとそれに答える機器メーカー機器・技術開発の努力を有効に繋げてゆきたい

・今後も、造粒による有用な複合物質の創成アプリケーションと、様々な分野の「最新、ユニークな造粒技術、造粒装置」を紹介し、この分野の啓蒙を続けてゆく。

今年度の事業計画の概要と運営方針

・年一回の「宿泊型技術討論会」、あるいは「非宿泊型の技術講演会」と、「日帰りの施設見学会」を、年間テーマにしたがって企画・運営してゆく予定。

産業界における実際の造粒技術の進歩を紹介してゆくと共に、アカデミックな研究、特に数値シミュレーションにおける造粒現象の解明とパラメーター決定に対応できる応用プログラムの開発状況を、近い将来年間テーマに掲げられる様に調査・検討してゆく予定である。

### 7.8 計装測定分科会 (森康維コーディネータ、藤正督副コーディネータ、鷲尾一裕代表幹事、大畑学副代表幹事)

回	本会合予定時期	予定地区	主テーマ
1	6月	東日本	粉体関係施設の見学
2	9月	西日本	粉体関係施設の見学
3	H28.1月	東日本	計装測定講演会

幹事会開催予定：3回(上記本会合に併せて開催)

活動：

中期活動テーマ

ナノ粒子計測を含む新しい粉体測定技術の探求と信頼性向上

今年度の事業計画の概要と運営方針

分科会は、見学会2回、講演会1回の合計3回の開催を目標とする。上記の中期テーマを継承しつつ、“ナノ粒子”に注目していきたい。粒子径分布以外の物性にも注目する。

### 7.9 湿式プロセス分科会 (岩田政司コーディネータ、後藤邦彰副コーディネータ、石川敏代表幹事、岡本泰次副代表幹事)

回	本会合予定時期	予定地区	主テーマ
1	未定	未定	環境
2	未定	未定	エネルギー

幹事会開催予定：2回(未定)

活動：

中期活動テーマ

水処理分野から先端材料創成技術に至るまで、湿式処理プロセスが必要とされているあらゆる分野を分科会の活動対象とする。

今年度の事業計画の概要と運営方針

新しいコーディネータを迎えた新体制で、ユーザーに役立つ見学・講演会を企画し、開催する。

## 7.10 粒子加工技術分科会

(福森義信コーディネータ、竹内洋文副コーディネータ、大川原正明代表幹事、伊藤有一、長門琢也各副代表幹事)

回	本会合予定時期	予定地区	主テーマ
1	6月18日	ドイツ	ACHEMA 視察、EVONIK 社他 見学
2	9月	大阪	見学講演会
3	H28年2月	滋賀	見学講演会

幹事会開催予定:4回(上記本会合に併せておよび必要に応じて開催)

活動:

中期活動テーマ

- ・粒子加工技術の向上

今年度の事業計画の概要と運営方針

- ・粒子加工技術の関連企業での見学会及び製剤などに関する講演会・・・年3回
- ・製剤と粒子設計シンポジウムを粉体工学会の部会とともに共催し、協力を続ける・・・年1回
- ・粉体エンジニア早期養成講座開講・・・年1回

## 7.11 輸送分科会

(田中敏嗣コーディネータ、武居昌宏副コーディネータ、井上照男代表幹事、岸本武志副代表幹事)

回	本会合予定時期	予定地区	主テーマ
1	5月	大阪	見学・講演(合同分科会)
2	10月	中部	見学・講演
3	3月	関東	見学・講演

幹事会開催予定:5回(上記本会合に併せておよび必要に応じて開催)

活動:

中期活動テーマ

『輸送設備における今後の市場動向の探求』

今年度の事業計画の概要と運営方針

近年、世界が激動の時代に入り、産業界における世界の設備投資が低迷し、改めて現在の輸送設備の位置付けや、その技術推移を見直す必要がある。そこで、これまで輸送設備が多く導入されてきた分野の再確認と、今後新たに導入が期待される新分野の動向を確認することで、輸送設備の抱える現状の問題点抽出と今後の進むべき方向を見出していきたい。具体的な分科会活動としては、幹事会社が分科会を利用し自らの問題点を少しでも解決するための勉強会を幹事会に加える、新市場を中心として、年三回予定されている分科会の開催とそれに関わる新技術の講演を企画できるように努めていきたい

## 7.12 クリーン化分科会

(大谷吉生コーディネータ、鍵直樹副コーディネータ、宇治勝幸代表幹事、渡辺幸次副代表幹事)

回	本会合予定時期	予定地域	主テーマ
1	6月	金沢	エアロゾルシンポジウム参加、工場見学と講演会
2	10月	関西	薬品工場施設見学と講演会
3	H28.2月	未定	クリーン化シンポジウム

幹事会開催予定:3回(4月-東京、9月、H28.1-未定)

活動:

中期活動テーマ

クリーン化分科会として、今まで半導体、液晶(FPD)、医薬品等のクリーン化技術について主に取り組んできたが、今後は機械、食品等の産業分野、あるいは民生用の一般家庭、人体を対象にしたクリーン化技術にまで幅を広げ行く。

今年度の事業計画の概要と運営方針

分科会として医薬品、食品関係の工場見学会と講演会を計画して行く。また、他学会との技術交流のため共催シンポジウムを計画したい。また2015年度には、金沢にて、6月にアジアエアロゾル会議 AAC2015、9月にISO/TC142「空気および他のガスの空気清浄化装置」の国際会議が開催されるので、これらの会議へ分科会として積極的に参加する。

### 7.13 環境エネルギー・流動化分科会

(幡野博之コーディネータ、成瀬一郎副コーディネータ、鈴木康夫代表幹事、高島久継副代表幹事)

回	本会合予定時期	予定地区	主テーマ
1	5月22日	東京	RDFと流動層シミュレーション
2	7月	岩手	バイオマス利用地域活性
3	10月	関西	下水B-DASH研究開発

幹事会開催予定:4月24日に開催予定。

分科会や分科会連絡会議と同時に幹事打合せを実施予定のためその後の幹事会等の予定はない。

活動:

中期活動テーマ

震災と原発事故、再生可能エネルギーの固定価格買取制度の実施など、環境エネルギーに関する課題は山積である。しかし実効のある技術や制度は、いまだコストや法制度の壁により有効に作用していない。環境エネルギー・流動化分科会ではこれらの課題に幅広く対応してゆく。

今年度の事業計画の概要と運営方針

流動層技術を中心に、再生可能エネルギー、特にバイオマスエネルギーの利用について調査するとともに、最新流動層技術動向の講演も併せて企画する。

### 7.14 晶析分科会

(大嶋寛コーディネータ、長谷川正巳副コーディネータ、亀井利道代表幹事、津崎裕也副代表幹事)

回	本会合予定時期	予定地区	主テーマ
1	5月	関西	晶析研究会
2	6月	ドイツ	ACHEMA2015
3	8月	未定	晶析技術分科会

幹事会・小委員会開催予定:

幹事会・小委員会:5回(上記本会合に併せておよび必要に応じて開催-4,5,6,9,12月)

活動:

中期活動テーマ

日本の晶析技術は最先端であり、引き続き国際交流を進める。27年度は、国際交流としては、他分科会とも連携して日独フォーラム(フランクフルト)に企画協力する。技術的には、晶析装置設計理論と晶析に関する最新情報について焦点を当てる。また、技術継承を目的として専門講座(または早期育成講座)を継続的に開催する。

今年度の事業計画の概要と運営方針

- ・専門講座を開催すべく準備中。日程は2015/10-11中旬、場所は千葉工大にて実施する。講演内容は、設計理論、最新のトピックス、レオロジーおよび攪拌、結晶構造分析・粒径分布測定・オンライン濃度測定などの実習について実施すべく、講師案と共に協議中。
- ・国際交流:ACHEMA(ドイツ) 2015/6/15-19、INCHEM(日本) 2015/11/25-27への参画。ACHEMAについては晶析研究会と合同でセミナーを開催し、他にも視察者向けの情報提供などを他の分科会と協力して実施する。
- ・粉体工学会 晶析研究会、晶析技術分科会(化学工学会材料界面部会)との協力:合同セミナーなどの開催を骨子として先方と協議を行い、実施に繋げる。

### 7.15 微粒子ナノテクノロジー分科会

(神谷秀博コーディネータ、宮原稔副コーディネータ、福井武久代表幹事、中村圭太郎、鳥居経芳各副代表幹事)

回	本会合予定時期	予定地域	主テーマ
1	6月	ドイツ	国際会議を活用した微粒子・ナノテクノロジー最新情報の発信(合同開催予定)
2	9月	未定	高濃度系スラリー利用をテーマとした講演会と見学会
3	12月	未定	微粒子・ナノ材料の活用をテーマとした講演会

幹事会開催予定:5回(4月一名古屋、7,9,12月-未定、H28.2月-京都)

活動:

中期活動テーマ

微粒子ナノテクノロジーの最新技術、製造、利用およびリスク管理について、海外を含めてバランス良く情報を収集するとともに会員企業に向けた啓発を行う。特に、微粒子・ナノ材料を如何に活用していくかを念頭に、基

礎・評価技術、利用技術および産業応用につながる会員企業にとって有効な情報発信に重点を置き活動を進める。また、協会が進める「ナノ物質の検討と対応」に関する活動、関連委員会への協力を進め、分科会横串的役割を担う。

今年度の事業計画の概要と運営方針

- ・濃厚系スラリーをテーマとした単独分科会を企画開催し、最新情報発信・啓発を進める。
- ・微粒子・ナノ材料を如何に活用するかについての検討し、合同分科会の企画を模索する。
- ・協会が進める「ナノ物質の検討と対応」、特に利用面での活動に協力する。

### 7.16 静電気利用技術分科会

(松山達コーディネータ、大澤敦副コーディネータ、畠中伸代表幹事、乾薫副代表幹事)

回	本会合予定時期	予定地区	主テーマ
1	7月	埼玉	落雷／超電高圧研究センター
2	未定	未定	静電気を利用した製造現場見学、講演

幹事会開催予定:2回(4、9月－東京 協会東京事務所)

活動:

中期活動テーマ

高度静電気利用技術による微粒子の制御

今年度の事業計画の概要と運営方針

- ・粉体工学会／粒子帯電制御研究会との協力関係による会員数の増大
- ・専門講座及び分科会企画の起点となる企業との関係構築

### 7.17 電池製造技術分科会

(境哲男コーディネータ、堤敦司副コーディネータ、秋元 祐代表幹事、桜井敏夫、佐藤高公各副代表幹事)

回	予定時期	予定地域	主テーマ
1	H27.5.27	東京	蓄電池、燃料電池、キャパシタ
2	H27.10.29-30	山形	日本－台湾蓄電池シンポ
3	H28.2月	山口	水素・燃料電池の実用化(未定)

幹事会開催予定:3回(上記本会合に併せて開催)

活動:

中期活動テーマ

次世代自動車やエネルギー貯蔵システムにおいて大きな貢献が期待される、電池、燃料電池、キャパシタなどの電池技術の抱える諸課題、たとえば、安全性や耐熱性、長寿命化、低コスト化、高容量化、高出力化などのブレイクスルーを図るべく、電池技術と材料技術、粉体技術を融合する場を提供し、わが国の産業競争力の強化に貢献する。

今年度の事業計画の概要と運営方針

粉体最先端処理技術をベースとした最新電池製造技術について、電池ユーザーや電池メーカー、電池材料メーカー、粉体技術メーカー、産学官研究機関など、異分野の人材、情報、技術の交流の場を提供する。

### 7.18 リサイクル技術分科会

(大矢 仁史コーディネータ、外川健一副コーディネータ、荻田哲也代表幹事、蓮池達央副代表幹事)

回	予定時期	予定地域	主テーマ
1	6月	山口県	ASR 処理／鉄のマテリアルフロー
2	9月	愛知県	廃プラスチックのマテリアルリサイクル
3	H28.2月	鹿児島県	原発再稼働と都市鉱山と金属リサイクル

幹事会開催予定:4回(上記本会合に併せておよび必要に応じて開催)

活動:

中期活動テーマ

「持続可能社会」「自然共生社会」「安全・安心社会」「高齢化社会」を基本的に見つめ、現実として震災復興、エネルギー問題に対して具体的に「リサイクル技術」がどう貢献できるかを見いだしていく。

今年度の事業計画の概要と運営方針

- ①第1回分科会として山口県においてASR処理、小型家電、医療廃棄物の処理施設の見学、及び「鉄のマテリアルフローの現状」(仮題)の講演会を開催する。
- ②第2回分科会は、廃プラスチックのマテリアルリサイクル施設の見学会と「容器包装リサイクルに関して」の講



演会を開催する。

③第3回分科会は、鹿児島県の再稼働を予定している川内原発の見学と、三井串木野鉱山にて都市鉱山と金属リサイクルに関する見学会を開催する。

## 7.19 食品粉体技術分科会

(羽倉義雄コーディネータ、五月女格副コーディネータ、千葉仁司代表幹事、川島哲文副代表幹事)

回	予定時期	予定地区	主テーマ
1	5月	茨城県	殺菌技術と食品加工技術
2	9月	都内(仮)	フードディフェンス(仮)
3	未定	未定	未定

幹事会開催予定:3回(上記本会合に併せておよび必要に応じて開催)

活動:

中期活動テーマ

食品製造の基本となる『安全・安心』をメインテーマに、引き続き『新たな調理・生産方式』、『最先端の生産技術』、『トラブルの未然防止』などもテーマに活動したいと考えている。

今年度の事業計画の概要と運営方針

中期活動テーマに沿って、食品工場の見学の他講演会などを通じ、食品に関わる新しい情報、技術を習得できる活動を行っていききたい。また、単位操作技術についての「基礎」と「最新動向」など食品メーカーに有意義な場を提供していききたい、と考えている。

## 8. 粉体工業技術センター (増田弘昭センター長、豊見昭副センター長)

### 8.1 教育部門 (牧野尚夫マネジャー、大川原正明、松坂修二各副マネジャー)

委員会開催予定:本委員会1回、小委員会1回

活動:

平成27年度は、例年同様に粉体入門セミナー、粉体エンジニア早期養成講座などを中心に次頁表のような講座を実施する。専門講座については、あくまでも可能性が有りそうなものも含めてではあるが、昨年より多い4件が提案されており、この件数程度は着実に実施していく。また、入門セミナーより易しいコンテンツについては、参考書の紹介などの対応案について、参加者の意見などを良く調査し、より有益な方法へと改善していく。

入門セミナー等のアンケートで不満を示した各講座の参加者については、講座が要求しているレベルと本人の知識レベルが食い違っていることも原因の一つと考えられるので、より適切なレベルの参加者が集められ易いように、各講座を体系化した案内用パンフレットを改良し、どのレベルの参加者に適する講座かを記載する予定である。

アドホックセミナー、経営講座、特別講座については、良い案が出された時点で臨機応変に対応して行くが、平成27年9月に粒子界面などに関わる国際会議が倉敷で行われ、海外から著名な教授が多数出席するので、これを機に特別講座またはアドホックセミナーを企画する予定である。

H27年度 開催予定講座

講座名とタイトル		開催日	開催場所
粉体入門セミナー(I)(第44回)		H27.6.4~5	東京/UDX GALLERY NEXT-3
粉体入門セミナー(II)(第45回)		H27.6.23~24	東京/UDX GALLERY NEXT-3
粉体入門セミナー(III)(第46回)		H27.7.8~9	東京/UDX GALLERY NEXT-3
粉体 エン ジニア 早期 養成 講座	粉体工学基礎論	H27.7.22~23	神戸/TKP 三宮ビジネスセンター/日清製粉(株)東灘工場
	計測・測定	H27.8.18~19	神戸/三宮研修センター/スペクトリス(株)
	粉体ハンドリング I (輸送・供給)	H27.9.10~11	埼玉/(株)日清製粉グループ本社
	粉体ハンドリング II (プラント・貯槽)	H27.10.8~9	京都/メルパルク京都/京都大学桂キャンパスローム記念館
	粒子加工	H27.11.9 の週を第一候補	浜松/フロイント産業株式会社
	乾燥	H27.11.12~13	千葉/月島機械株式会社
	分級	H27.11.17~18	埼玉/日清エンジニアリング(株) 粉体事業部
	粉砕	H27.11.26~27	千葉/榎野産業(株)
	集じん	H27.12.9~10	浜松/アクトシティ浜松/(株)環境衛生研究所
	ろ過	H28.1月頃	大阪/関西金網(株)
	混合・混練	未定	神奈川/(株)徳寿工作所

第 61 回粉体技術専門講座（晶析） 晶析反応場におけるレオロジー	H27.10.末～11 月 2 日間	
第 62 回粉体技術専門講座（混合・成形） 混合・混練の評価	分科会に詳細検討を要請予定	
第 63 回粉体技術専門講座（輸送）	同上	
第 64 回粉体技術専門講座（分級ふるい分け）	同上	2015 か 2016 年度に計画
粉じん爆発・火災安全研修[初級・基礎編]	H27.11.12-13→9 月か 12 月に変更可 可要請中	東京/労働安全衛生総合研究所
第 4 回海外情報セミナー	H27.6 初旬	東京/株日清製粉グループ本社 本社ビル 会議室
第 5 回海外情報セミナー	H27.11 月頃	東京/株日清製粉グループ本社 本社ビル 会議室
アドホックまたは特別講座として	H27.7.10	岡山/倉敷ロイヤルアートホテル

## 8.2 製造事業部門（竹内和マネジャー）

委員会開催予定:なし

活動:

- 1)MBP 粒子に引続き、計装測定分科会の協力の下、標準粉体委員会で検討されているサブミクロン領域粒子径分布測定装置試験用粒子新 FSTP の CRM 化を推進する。MBP 粒子(1~100 μm)と新 FSTP 粒子(0.09~1.5 μm)を合わせると、恐らく世界最大範囲の粒子径分布の CRM を持つことになる。
- 2)本年 12 月が切換え期限である製品安全データシートの GHS 化(SDS へ切り替え)を行う。顧客へ旧版より充実した内容の最新版 GHS 準拠 SDS を提供することにより標準粉体の評価を向上させることができる。
- 3)「JIS Z 8901 試験用粉体及び試験用粒子」に実際数値と規格値の間に差異が出てきたので、その対応法を規格委員会と相談、JIS 改定を含む何らかの対処を行い JIS 試験用粉体の信頼性の保持を図る。

項目	平成 26 年度予算(千円) A	平成 27 年度予算(千円) B	B/A(%)
製造部門収入	94,120	94,000	99
製造部門事業費	70,060	66,470	95
収支差	24,060	27,530	114

## 8.3 産学技術交流推進部門（後藤邦彰マネジャー、菅原一博副マネジャー）

委員会開催予定:4回

活動:

- 1)技術相談 利用者増をめざしチラシを配布する。20 名の技術相談を目指す。
- 2)APPE 産学官連携フェア 2015  
開催日程:2015/10/15 9:30~15:00  
参加費:会員及び粉工展出展社 3000 円、一般 5000 円  
目標シーズ:50 件  
参加者:100 名  
フラッシュプレゼンの時間 5 分  
ポスターセッションの時間 20 分  
当日の実行小委員 シーズ提供者より 4 名
- 3)第6回テクノカフェの開催 H28 年3月(京都)

## 9. 技術情報交流懇話会

9.1 火曜会: 東京にて 4 回開催する。

4 月 14 日、7 月 7 日、10 月 6 日、H28.1 月 19 日

9.2 水曜会: 名古屋にて 3 回開催する。

6 月 24 日、10 月 28 日、H28.2 月 17 日

9.3 木曜会: 大阪にて 4 回 開催する。

5月14日、9月3日、12月3日、H28.3月3日

9.4 金曜会：福岡にて3回開催する。

7月24日、11月6日、H28.3月11日

## 10. 共催・協賛及び後援行事

(H27.4.1～H28.3.31 確定分)

### 10.1 共催

行事名	開催日	開催場所	主催団体
第50回技術討論会	H27.6.25 ～6.26	大阪/大阪府立大学	粉体工学会

### 10.2 協賛

行事名	開催日	開催場所	主催団体
第32回空気清浄とコンタミネーションコントロール研究大会	H27.4.21 ～4.22	東京/早稲田大学	日本空気清浄協会
色材セミナー	H27.5.20	大阪/ドーンセンター	(一社)色材協会関西支部
TECHNO-FRONTIER 2015	H27.5.20 ～5.22	千葉/幕張メッセ	(一社)日本能率協会
化学工学会「産学人材育成パートナーシップ事業」	H27.5.21～ 8.20	東京、千葉他	(公社)化学工学会
日本エネルギー学会[リサイクル・バイオマス・ガス化]三部会(RGB)シンポジウム	H27.5.22	東京/全国家電会館	日本エネルギー学会
FOOMA JAPAN 2015	H27.6.9 ～6.12	東京/東京ビッグサイト	(一社)日本食品機械工業会
第23回最新科学機器展 第11回計量測定総合展 最新技術セミナー	H27.6.10 ～6.12	名古屋/名古屋国際会議場	東海科学機器協会、(一社)愛知県計量連合会、フジサンケイビジネスアイ
単位操作のイノベーションシリーズ	H27.6.24	大阪/大阪科学技術センター	(公社)化学工学会関西支部
アジア粉体技術シンポジウム(APT2015)	H27.9.15 ～9.18	韓国/COEX convention center	アジア粉体技術シンポジウム国際組織委員会
「セラミックス&ガラス技術展2015」(旧:国際セラミックス総合展)	H27.9.16 ～9.18	東京/東京ビッグサイト	(株)日本工業新聞社

## 11. 刊行物

11.1 月刊「粉体技術」 A4版 約100ページ

編集:「粉体技術」編集委員会

発行所:(一社)日本粉体工業技術協会

発行:月刊(市販1,620円/冊)(約1,500部)

11.2 日本粉体工業技術協会 事業案内(和文2015/2016年度版) A4版 11ページ

編集/発行所:(一社)日本粉体工業技術協会

発行:平成27年6月(700部)

11.3 日本粉体工業技術協会開催の各種セミナー・講習会と教育部門の講座用テキスト

編集/発行所(一社)日本粉体工業技術協会 教育部門他

発行:各50～100部

11.4 APPIE annual Report 2015 A4版 2ページ

編集/発行所:(一社)日本粉体工業技術協会

発行:500部

11.5 APPIE 産学官連携フェア2015 シーズ集

編集/発行所:一般社団法人日本粉体工業技術協会 APPIE 産学官連携フェア実行委員会

発行:平成27年10月15日